

「高倉の昔ばなし」より

十番 天狗のつけ火

平成十八年一月初演
高倉郷土芸能保存会

ナ

氷川神社より川越寄りの国道十六号の反対側に、まだ小新しい地蔵菩薩の石像が立っている。

ここには昔、高峯山宝行寺と云う寺があったと伝えられている。

この寺は修験の寺で祈願祈禱を行い、修験僧の良貞様は氷川神社の別当職も務めていた。

お堂の水神様があらたかで、毎年水に困った高倉の村人にとっては特に信仰が深かった。

今日も寺の前の弥吉つあん等は、北久保田んぼに無事水が廻るよう揃って祈禱した。ところが其の晩。

開幕

天狗

「さあてさあて、わしは高尾山に住む鼻天狗じゃ。今日は、笹井の篠井観音へ遊びに来たが酒を飲みすぎ、すっかり遅くなって日が暮れてしまったあ。ここ迄急いで飛んで来たが、とうとう真暗になった。高尾山の方も何もいっせつめえねえ困ったわい。困ったわい。

しかたがねえ、この宝行寺の屋根え燃やして灯にして高尾山へ帰るべえ、ちよつくらごめんよう」（カチカチ）

皆

袖内 鉦を叩き

火事だあ、火事だあ「火事あアツチだー」「前の方だー」

「水神様だー」

良貞

「ア、ア、大変だ、大変だ、だれかあゝ助けてくれーたのまあー。ああ棟あおっこったあーこりやもうだめだ、丸焼けだあー」

皆

「ソレー、急げ、急げーセツセツセツセ、急げ急げセツセツセツセ」

「あーこりやもうだめだ」

皆は鳶口や手桶を持ってかけつける。丸焼けになった堂の前でがっかりして腰を下す

弥吉

「ああーだめだー丸焼けだあー北久保田んぼの水も無えっちゆうによう、水神様がなくなっちゃった何処を拝むだあ、弱っちゃったなあ弱っちゃったなあー」

良貞

「トホホ・・・」

良貞泣き出す

皆

「ア、ちゃったあちゃったあ良貞さん
ア、泣いてん時じゃああるめえよ
ア、あんとかすべえよ良貞さあアーーーーーん」

良貞

「トホホホ、全くまいったなあ、あんつつたつて天狗てんじこ様のつけらした火
だあ、屋根のてっぺんからいつぺんに火あ廻つてどうすることも出来やし
なかつた本尊様あ持つて出んのがやっとこせえのせえだったよう、まいった
よう。
あんとかすべえつつたつて銭あ一文もねえしよう。

二平

「れえー、あつけえ来んなあ江戸の親分じやあねえかあ、ああやつぱりそ
うだ、ずいぶん親分さん早かつたなあーあ、さすが早耳だなあ、」

源兵衛

「いやあ、あにも知らねえ、町屋え来て廻りこんだのよ、みんなあ青え顔し
ちやつてどうしちやつたい、馬鹿にきなくせえなあ、」れえ、水神様
あ焼ちまったのかいこりやあ大事だなあ火事あそそう火かえ」

弥吉

「ああ四ツ谷の親分さんよー実あ高尾山の天狗の野郎がなあコレコレ、コ
レコレ、コレコレだあそれどとほうにくれてるちゅう訳でさあねえ」

源兵衛

「ふーん、コレコレ、コレコレ、コレコレだちゅうこたあすつかり訳つたあ、
よーし俺もみんなのお陰でおまんまをいただいてる商売だあ、お堂の建
替えのたしに良貞さん、少ねえがこれえ五両、つけといてくんなあ」

良貞

「ええー五両もですかい。有難えこつた、さあみんなあ、親分にお礼ゆつて
くんあ」

皆

「セーノオ、申しやあけえねえ親分さん、ああすまねえすまねえ親分さん、
すまねえ親分さーーーーーん」

良貞

「こんないら出してもらつちやあ半分足れちまああみんなあ、あと半分集
めんべえ、そうだ、東方にも助けてもらあべえ、さあ本気でいぐべえ」

閉幕

ナ

こうして江戸四谷御門外島屋源兵衛さんはじめ大勢の協力で寄付金も集まりお
堂は改築され、村人は又秋の稔りを一心に祈願するのであった。尚東方と云うの
は東高倉村8軒を云います。

開幕

良貞・皆

「ノンノーカンジーノンノーカンジー、ノンノーカンジーノンノーカンジー
南無水神大明神ボーサー、南無水神大明神ボーサー、今年も稲を稔らせ給え、
今年も稲を稔らせ給え、ノンノーカンジーノンノーカンジー、ノンノーカン
ジーノンノーカンジー」

彦七

「ア、天狗が居んど、いつ入り込みやあがった」

二平

「ヤイヤイ天狗野郎、えれえ悪さあしてくれたなあ、みくんな手前がやつ
た事あ判ってんだどうよくのこのこ入って来られたもんだあ」

天狗

「めんぼくねえ酒え飲み過ぎてやったことたあゆい申しやあけねえことを
した。詫びのしるしに、これこの通り鼻あ折って来たあ」

彦七

「ああ、ああ、それじゃあおめえ天狗様あ廃業だなあ、まあそんなに気う
病むねえほうれこの通りみんなのお陰でよう水神様あすつかり新しくなっ
たあ、これ天狗う、鼻が生えかあつてもこれからあ悪さあしちやあなんね
えどう」

天狗

「ああ、もう決して悪さあしねえよう水神様あ、お詫びに天狗の鼻カケ踊り
でも奉納すべえ」

全

「そりやめずらしい、やつてもらあべえやつてもらあべえ」

天狗

「チャカボコチャカボコチャカポンポン」

天狗の鼻が無くなった

こんな顔が軽いのか

おかめひよつとこ にぎりっぺ

鼻ぺしやみんな 軽いのか

「チャカボコ チャカボコ チャカポンポン チャカポンポン」

閉幕

ナ

そして秋 今年はいつにない豊作でここ北久保田んぼも皆喜んで取入れが始ま
った。

開幕

二平

「水神様のお陰でよう豊年満作だなあ、この北久保田んぼ始まって以来え
の豊作だんべえよ」

彦七

「れええでつけえ猪だなあこんなでけえのがよくひっかかったなあうん
まそうだなあ」



「さき、はせん前のおつことし穴え見廻りい行ったらなあ、このちきしようがひっかかってやあがったあ、こん所はせんめえの畠が猪のちきしようにえれえことをされてな、しようがねえから穴のさそいみちゆう三本べえ増やしといただよ。そけえ野郎がひっかかりやあがった。まあこれではせんめえの畠もちったあ良くなんべえよう、じゃあおれえらあさきい行つて鍋え作つてんかんあ、早くこうやあー」

「すまねえなあうんまく作つといてくんああ」

「早くおやして猪汁で一杯えだーい」

取入れの踊りでまくとなる

挨拶 「有難うございました」

配役氏名	代役	役	小道具
天狗			火事・新宮
良貞			トビロ・手桶
弥吉			天狗の鼻
源兵衛			トキン2個
二平			蛇の目傘
彦七			御神体
清三			
ナレーター			
笛			
太鼓			
鉦			
幕引			
拍子木			各々衣装